

## 教育振興基本計画 基本理念再検討案

### <教 育>

- 1. スローガン(基本理念)の再検討について …… 2
- 2. 再検討案について …………… 4

# 基本理念再検討案

## 1. スローガン(基本理念)の再検討について

第2回策定委員会で3つの基本理念の案(「SDGs」「令和の日本型学校教育」「子どもの自己肯定感を育む」)をご提示しましたが、町としてどんな子どもを育てたいのか、スローガンとしてのわかりやすいものがよいなどから、再検討することになりました。

再検討にあたっては、町長及び教育長へのヒアリングや検討部会の下部組織となるワーキング会議において「教育の原点探しワークショップ」を開催し検討を行いました。

### (1)第2回策定委員会での御意見(第2回策定委員会議事録は別紙参照)

・町としてどのような子どもを育成してきたいのかという所をもう1度検討していただきたい

《主な意見》

- ・みんなが理解しやすく、子どもたちも理解できるようなスローガンのような、そのような身近な言葉でできてもよい
- ・現計画の基本理念は、温かみのある町だと思えるような文言ではあるので、温かい町を目指していくか、それとももっと何かに特化した伸びゆくまちを目指していくのか(原案3案)でも文言が変わってくる
- ・阿見町を目指す方向が一つ見えてくるような文言であると、同じ方向が向ける
- ・「阿見町」といえばこれだというものを繋ぐ、阿見町はどんな子を育てるのかという所が根拠になるとよい
- ・阿見町が求める人間像みたいなのが何かこうあれば、子どもたちにどういう目標を持たせて取り組ませるかが出てくる
- ・「自分を信じて挑戦する力を育成する」この力を付けてもらいたい
- ・一人一人違うことを認めてあげることを入れてもらえるとよい
- ・「個性を生かす」という所は非常に重要な点
- ・学校教育としては、今までやってきたことをもっと発信できるような言葉がよい
- ・自分が何でも挑戦できるといった自己肯定感を育むような、そのような教育ができれば理想
- ・最大限に引き出すという言葉は、できなかったらどうなるのという話になってしまい、プレッシャーを感じてしまうので、違う言葉の方がよい

### (2)町長及び教育長へのヒアリングの概要

計画の策定にあたり、町長及び教育長の阿見町の教育に関するお考えを伺うことを目的としヒアリングを実施しました。

- ・ゴミの問題や霞ヶ浦の浄化など自然環境や地域資源の環境教育や多様性を尊重するダイバーシティ教育は大切である
- ・第一期の時にスクールカウンセラーを小中学校に配置したが、まだまだ十分ではない。ソーシャルワーカーも含めてカウンセラーに気軽に相談ができるようにしたい
- ・ヤングケアラーの実態を把握することも必要である。生活困窮家庭を市や地域、学校等で支えられるやり方を考える

- ・阿見町の自然を活かしていろんな体験できる教育を進めることが大事である
- ・人口増加による教室不足の解消に向けた検討を進める
- ・これからの学校教育で必要な事は3つ
  - ①主体的に課題を発見して、解決に導く力、志、あとは夢やリーダーシップ
  - ②創造性、チャレンジ精神、忍耐力、自己肯定感
  - ③思いやりとか、コミュニケーション能力や多様性を受容する力
- ・失敗したって構わないではないかという教育をこれからはしていかなければならない
- ・命を大切に作る取組は大切であるため、こういった所を計画の中に取り込んでいけたら良い
- ・地区による人口の偏りを、学校に合った特色をどんどん出していかないと、人口格差を埋める事ができないと思う
- ・地域資源を生かすことが重要(例えば、産学官連携を学校教育や社会教育の中に取り入れていく)
- ・義務教育学校を視野に入れていく必要がある
- ・全国的な問題ですが教員の確保と確保した人材の資質の向上

### (3)ワーキング会議でのスローガンの見直し結果

- ・阿見町の教育(欠かせない要素)は、「地域」や「心(豊かな・心を育む)」、「命を大切・支える力」などの「心」や「人間力」を育てる情操教育が大切であるという結論から、現計画の基本理念である「学びあい 支えあい 共に輝く人づくり」を基本に検討することとなりました。
- 「学びあい」の中にも、生きる力や自分を信じてチャレンジ(挑戦)する力が含まれており、「支えあい」の中にも、命を大切・支える力・誰一人取り残さない(SDGs)が含まれている
- 「共に輝く人づくり」については、情操教育の大切さを踏まえて「共に輝く」を「心を育む」に変更してもよいのではないか などの意見がありました。
- ・SDGsの視点や令和の日本型学校教育の視点については、これからの教育にとって必要不可欠な要素であるため、基本理念の考え方の中で整理することとしました。

#### □ワークショップの概要(詳細は別紙参照)

- ・マンダラチャート(マンダラート)※を活用し、阿見町の教育の要素を探るワークショップを実施しました。
- 「教育」の言葉から連想される8つのキーワードを出し合い、そのキーワードを「阿見町の○○」として、8つのキーワードをさらに連想・深掘していきます。
- 8×8＝最大64のキーワードをもとに、「阿見町らしい教育において、欠かせない要素(キーワード)」を抽出し、阿見町らしいの教育に欠かせない要素(キーワード)をもとにスローガンを見直しました。
- ※マンダラチャートとは、曼荼羅模様のようなマス目を作り、そのマス目一つ一つにアイデアを書き込むことで、アイデアの整理や拡大などを図り、思考を深めるものです。

## 2. 再検討案について

### (1)再検討案

#### ■再検討の視点

##### 《ワーキング会議より》

- ・現計画の基本理念である「学びあい 支えあい 共に輝く人づくり」を基本に検討
- ・「学びあい」の中にも、生きる力や自分を信じてチャレンジ(挑戦)する力が含まれている
- ・「支えあい」の中にも、命を大切・支える力・誰一人取り残さない(SDGs)が含まれている
- ・「共に輝く人づくり」は、情操教育の大切さを踏まえて、「共に輝く」を「心を育む」に変更してもよいのではないかと

##### 《策定委員の意見より》

- ・挑戦する力を付けてもらいたい、自分が何でも挑戦できるといった自己肯定感を育む
- ・一人一人違うことを認めてあげることを入れてもらえるとよい
- ・個性を生かすことは非常に重要な点

##### 《町長及び教育長ヒアリングより》

- ・命を大切にする取組は大切
- ・環境教育や多様性を尊重するダイバーシティ教育
- ・主体的に課題を発見して、解決に導く力、志、あとは夢やリーダーシップ
- ・創造性、チャレンジ精神、忍耐力、自己肯定感
- ・思いやりとか、コミュニケーション能力や多様性を受容する力
- ・失敗したって構わないではないかという教育

##### 《町の上位計画におけるまちづくりの基本理念》

- ・基本理念:「みんなが主役のまちづくり」
- ・まちづくりの基本目標:10 年後のまちの姿を実現するために、「人がつながるまちづくり」、「人を育むまちづくり」、「暮らしを支えるまちづくり」、「安全・安心のまちづくり」の4つの基本目標を設定されています。
- ・「人を育むまちづくり」では、子供、高齢者、障害者にやさしく、町民誰もが、住み慣れた家庭や地域で、人とのふれあいを深めながら、地域、保健、医療や 福祉の連携のもと、生きがいを持って暮らせるまちを目指します。また、子供たちが健やかに学び育つことができ、町民が生涯に わたって学び、共に高め合うことができる環境づくりを進めます。



## ■基本理念

我が国を取り巻く社会背景を見ると、society5.0 時代が到来し、社会の在り方が大きく変化しています。また、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大や多発する大規模自然災害、紛争など、先行きの予測が困難な時代でもあります。さらに、持続可能な社会の実現を目指す SDGs（持続可能な開発目標）では、目標4に「質の高い教育をみんなに」が掲げられています。

一方、教育をめぐる課題としては、子どもたちの多様化、情報化への対応の遅れ、生徒の学習意欲の低下、少子化・人口減少の影響、教師の長時間労働、感染症への対応など、様々な課題への対応が求められています。

阿見町においても、少子化による教育環境の変化と人口増によるバランスの変化への対応やデジタル化、家庭・地域の教育力、そして多様化する子供たちに対応した「誰ひとり取り残さない」教育への取組などが課題となっているところです。

このような状況を踏まえ、阿見町においては、時代とともに変化する教育課題に的確に対応しながら、未来に誇れる「阿見町らしい教育」を推進していくものとします。

そのため、豊かな自然環境に育まれ培われてきた阿見町の風土・歴史・伝統に根差した教育を継承し、まちぐるみ、地域ぐるみで育てる教育を原点としながら、子どもの個性や能力を生かす教育、多様な子どもの心に寄り添い、誰ひとり取り残すことのない教育を目指します。

阿見町では、「阿見町らしい教育」を、「チャレンジする心」「未来を描き想像する心」「自己肯定感が備わったポジティブな心」「命を大切にする心」「多様性を受け止める心」「人とのコミュニケーションを大切にする心」、すなわち「豊かな心」を育成する教育ととらえ、教育の基本理念を次のように定めました。

### 《スローガン》

学びあい

支えあい

心を育む人づくり

## (参考)第2回策定員会で提示した3つの案

阿見町においては、平成 25 年に「阿見町教育振興基本計画」を策定し、教育は町民すべての手で支えていくと「学びあい 支えあい 共に輝く人づくり」を基本理念として掲げ、家庭、地域、学校、行政が、手を携えて、まちぐるみ、地域ぐるみで育てる教育を推進してきました。

今、society5.0 時代が到来し、社会の在り方が大きく変化してきています。また、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大や多発する大規模自然災害など、予測困難な時代でもあります。さらに「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指して世界が取り組んでいる SDGs(持続可能な開発目標)では、目標4に【教育】「全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」ことが掲げられています。

このような中、子どもたちには、幸福で充実した人生を送るために、課題を見だし、主体的に考え、協働的に議論し、納得できる答えを生み出す資質・能力を身につけることが求められています。

阿見町は、未来を担う子どもたちの可能性を引き出し、一人ひとりの資質・能力を確実に育成するために、

### 【案①】「SDGs」を踏まえた基本理念案

SDGsの理念を踏まえ、子どもたちの個性を大切に、一人ひとりが持つ力を伸ばし、将来の社会の担い手を育てる教育を目指していきます。

一人ひとりの可能性を広げ

持続可能な社会の創り手を育成する

### 【案②】「令和の日本型学校教育」を踏まえた基本理念案

子どもたちの個性を活かすとともに力を伸ばし、一人ひとりが持つ可能性を最大限に引き出す教育を目指していきます。

子どもの個性を活かし能力を高め

可能性を最大限に引き出す教育

### 【案③】個性を活かし能力を高めることで子どもの自己肯定感を育むことに焦点を当てた基本理念案

児童生徒それぞれが持つ力を伸ばし、身につけた力を発揮できる機会の創出、また、自分に自信を持って新しいことに挑戦できる力を培う教育を目指します。

自分を信じて挑戦する力を育成する